

## 小学校教育現場における授業改善方法とその課題に関する調査

菅原 友子\*・\*\*\*, 三浦 和美\*\*, 中島 平\*\*\*\*

\*仙台市立高森東小学校

\*\*東北福祉大学子ども科学部

\*\*\*東北大学大学院教育情報学教育部

\*\*\*\*東北大学大学院教育情報学研究部

**要旨：**現在教育現場には「自主的に学び続ける力をもった教員（文科省2012）」が求められているが、多忙な教育現場において授業改善を日常的に実践することは容易ではない。小学校を対象とした授業改善については、調査や組織的な進め方の研究が行われている。しかし、通常の授業においてどのように授業改善が行われているかという教員の具体的な活動に関する調査は行われていない。そこで、本研究では、小学校教育現場の通常の授業において、授業改善の取組状況やその困難さ、授業中の意識について質問紙による調査を実施し、授業改善方法とその課題を明らかにした。

**キーワード：**学び続ける教員、教育現場、授業改善、授業リフレクション、自己モニタリング能力

### 1. はじめに

近年、学校現場における諸課題の高度化・複雑化により、団塊世代の大量退職に伴い急増している初任段階の教員が困難を抱えている（文部科学省2012）。「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（中央教育審議会）は、学び続ける教員を支援する仕組みの構築が必要であるとしている。これまで資質能力向上のために自主的に学び続ける取組として、教材研究と研究授業、授業検討会から成り立つ授業研究が伝統的に行われ、授業を改善してきた。諸外国からも注目される授業研究は、授業改善、教師の授業力量形成、授業についての学問的研究の発展の3つを目的としてきた（水越ら1995）。

しかし、既存の授業改善の場である授業研究は「仮説・検証型」が主流になり、授業改善や授業力量の形成は個人に任せられる傾向にある（岩手県立総合教育センター2006）。また、授業リフレクションは授業改善への有効性が注目されており、澤本ら（2005）は討議や対話を通して高めることが重要としている。しかしながら、90分ほどかかる授業リフレクションは、残業時間が40年間で約4倍という多忙な勤務実態（文部科学省2006）において日常的に

実践することが難しい状況である。それでは小学校の教員はどのように授業改善に取り組み、またどのような授業改善への課題を持っているのだろうか。

これまで、努力義務だったファカルティ・ディベロップメント（Faculty Development）が義務化されたこともあり、授業改善についての調査や研究は大学が中心に行ってきた（文部科学省2007）。一方、小学校を対象とした授業改善についての調査では、指導力を高める取り組みと教員の悩みがある（ベネッセ教育開発センター2010）。指導力を高める取り組みで最も多いのは「校内で教材・授業研究をする」（94.0%）であり、また教員の悩みで最も多いのは「教材準備の時間が十分にとれない」（91.3%）であった。上述の調査では、授業改善の取り組みや困難さを概観できるものの、通常の授業においては調査されていない。また、授業改善を図るための組織的な進め方やガイドブックは地域ごとに出されているが、校内で日常的に行われてはいない（岩手県立総合教育センター2006）。

そこで、小学校教育現場において、授業改善の取組状況やその困難さ、授業中の意識について質問紙を通して調査することで、日常的に授業改善し学び

続ける教員を支援する方法を検討することができる  
と考えた。

本研究では、このような質問紙を通じた調査により、小学校教育現場の授業改善方法とその課題を明らかにすることを目的とする。

## 2. 方法

まず、小学校で授業を行う場面において、教師の授業改善状況や困難さ、授業中の意識を把握するための質問紙を作成した。次に、この質問紙を用いて、小学校教師15名を対象に調査を実施した。そして、得られた結果をもとに、検討を行った。その結果を以下に示す。

### 2.1 調査時期および対象

2013年5月8日の一日で配布及び回収を行い、協力が得られたT小学校教員15名を対象に調査を実施した。教職経験年数の違いによって、対象者を若手教師（教職経験1～9年）、中堅教師（教職経験10～19年）、熟練教師（教職経験20年以上）の3つに分け、さらに若手でも中堅に近いのか初任なのかなどが分かるようにしたのが表1である。

### 2.2 質問紙の作成

質問紙の作成に当たり、本研究における「授業改善方法」を規定することにした。澤本ら（2005）はベテラン教師が身につけている「教えながらも指導している自分をモニターして修正する能力」を討議や対話を通して高めることが重要としている。自己モニタリング能力を高める方法を授業改善方法の一つとして捉えることとした。そして、この規定をもとに、表2に示す質問項目を作成した（外的基準変数は、教職経験年数とした）。以下に、その作成手順を示す。

まず初めに、授業改善方法に関する質問項目を作成した。具体的には、授業改善に取り組んでいるかいないか、取り組んでいるとすればどのような方法

表1 対象者の教職経験年数構成

	前半	後半
若手教員(1～9年)	1,3,4	なし
中堅教員(10～19年)	10	16,17
熟練教員(20年以上)	23,24,24,28	33,33,34,35,37

表2 作成した質問項目

質問項目	
1-1	あなたは、授業改善に取り組んでいますか（いましたか）。
1-2	1-1で取り組んでいると答えた方は、どのように取り組んでいますか（いましたか）。 1 同僚に相談する。 2 実践の本を読む。 3 研修会に参加する。 4 研究授業を引き受ける。 5 その他。
記述	授業改善に取り組むことで留意していることがあれば具体的に書いてください。
2-1	授業改善に取り組むのに困ることがありますか（ありましたか）。
2-2	2-1で困ることがあると答えた方は、どんなことで困っていますか（いましたか）。 1 時間がない。 2 途中で中断することがある。 3 方法が分からない。 4 協力者がいない。 5 その他
記述	授業改善が困難と感じることがあれば具体的に書いてください。
3	授業をしていて、あなたは子どもたちについて次のように考えたことがありますか（ありましたか）。 1 ここが理解できていない。 2 何となく分かっている（いない）。 3 この問題なら簡単に解けそう 4 簡単などころから始めよう。 5 この考え方ではだめだから、別の考え方をしてみよう。
記述	授業をしていて、良く考えることを具体的に書いてください。

かなどに関する質問項目を作成した（項目1-1, 1-2）。続いて、授業改善は難しいという先行調査結果があるため、授業改善に取り組むのに困ることがあるかないか、困ることがあるとすればどんなことで困っているかに関する質問項目を作成した（項目2-1, 2-2）。また、自己モニタリング能力にかかわる、授業中における教員の意識を調査する必要があると考え、自己学習力を高めるためにも不可欠とされるメタ認知（教育工学事典2000）を参考に質問項目を作成した（項目3）。なお、授業を持っていない管理職も対象

となるような質問項目とした。

このようにして作成した3つの大項目からなる質問項目を方法や場面、意識内容と対応させて質問紙を構成した。この質問紙には、「1.よく当てはまる」「2.時々当てはまる」「3.あまり当てはまらない」「4.全く当てはまらない」の4件法で回答を求め、回答の得点化に際しては、人数と%で表すようにした。さらに、授業改善に関する実態を質的に検討するため、自由記述による質問項目を3項目作成し、質問紙に加えた。この質問紙の作成に当たっては、若手教師（教職経験1～9年）3名、中堅教師（教職経験10～19年）3名、熟練教師（教職経験20年以上）9名で、教職経験年数の違いによって授業改善方法や困難さ、授業中の意識の差を捉えることができるのかという観点から第2・第3著者と協議して各項目の内容や文章表現の妥当性について検討した。

### 3. 結果と考察

#### 3.1 学校現場における授業改善の現状

##### 3.1.1 授業改善の取組方法

授業改善には93%が取り組んでおり、特に若手教師と中堅教師は100%の回答だった。

授業改善の取組方法について、「よくある」「時々ある」が全体に占める割合を表したのが表3である。

表3 授業改善の取組方法で「よくある」「時々ある」と回答した人数と割合(%)

同僚に相談する	若手	3/3	(100%)
	中堅	3/3	(100%)
	熟練	9/9	(100%)
実践の本を読む	若手	3/3	(100%)
	中堅	3/3	(100%)
	熟練	8/9	(89%)
研修会に参加する	若手	0/3	(0%)
	中堅	3/3	(100%)
	熟練	8/9	(89%)
研究授業を引き受ける	若手	3/3	(100%)
	中堅	1/3	(33%)
	熟練	3/9	(33%)
その他	若手	1/3	(33%)
	中堅	2/3	(67%)
	熟練	6/9	(86%)

る。全体の傾向として、「同僚に相談する」「実践の本を読む」の割合が高かった。経験年数の違いで比較すると、「研修会に参加する」は若手教師が0%、中堅教師が100%、熟練教師が89%であった。また、「研究授業を引き受ける」は若手教師が100%、中堅教師と熟練教師が33%であった。その他として、インターネットで調べる、グループで研究する、自分の授業をビデオに撮るなどが挙げられた。

このことから、経験年数による授業改善方法の違いが明らかになった。若手教師は自主的に研究授業を引き受けることで、中堅教師や熟練教師は研修会に参加することで授業を改善する傾向が調査の結果、明らかになった。

##### 3.1.2 授業改善で困っていること

授業改善で困っていると回答したのは全体の47%で、若手教師は100%、中堅教師は0%、熟練教師は56%が困っていると回答した。

「時々ある」が全体に占める割合を表したのが表4である。全体の傾向として、「時間がない」が93%と高い割合であった。経験年数の違いで比較すると、若手教師は「方法が分からない」が100%であるのに対して、中堅教師は33%、熟練教師は11%であった。また、若手教師は「協力者がいない」が67%

表4 授業改善に取り組むのに困難なことで「よくある」「時々ある」と回答した人数と割合(%)

同僚に相談する	若手	3/3	(100%)
	中堅	3/3	(100%)
	熟練	9/9	(100%)
実践の本を読む	若手	3/3	(100%)
	中堅	3/3	(100%)
	熟練	8/9	(89%)
研修会に参加する	若手	0/3	(0%)
	中堅	3/3	(100%)
	熟練	8/9	(89%)
研究授業を引き受ける	若手	3/3	(100%)
	中堅	1/3	(33%)
	熟練	3/9	(33%)
その他	若手	1/3	(33%)
	中堅	2/3	(67%)
	熟練	6/9	(86%)

%であるのに対して、中堅教師は0%、熟練教師は33%であった。さらに、「途中で中断することがある」は若手教師が33%、中堅教師が67%、熟練教師が89%であった。その他困っていることとして、ICT機器が使いこなせない、助言がもらえず自力解決しているが挙げられた。

このことから、経験年数による授業改善の困難さの違いが明らかになった。若手教師は改善方法が分からないことや協力者がいないこと、中堅教師や熟練教師は中断することで困っていることが調査の結果、明らかになった。

### 3.1.3 授業中の意識

授業中の意識について、「よくある」「時々ある」が全体に占める割合を表したのが表5である。全体の傾向として、「何となく分かっている(いない)」といった感覚や「この考え方ではだめだから、別のやり方をしてみよう」といった修正については全員が意識したことがあると回答した。中堅教師は33%、熟練教師は11%であった。また、若手経験年数の違いで比較すると、若手教師は「この問題なら簡単に解けそうだ」という予想が33%であるのに対して、中堅教員は100%、熟練教師は89%であった。また、若手教師は「ここが理解できていない」という気づ

表5 授業中の意識について「よくある」「時々ある」と回答した人数と割合(%)

ここが理解できていない	若手	2/3	(67%)
	中堅	3/3	(100%)
	熟練	9/9	(100%)
何となく分かっている(いない)	若手	3/3	(100%)
	中堅	3/3	(100%)
	熟練	9/9	(100%)
この問題なら簡単に解けそう	若手	1/3	(33%)
	中堅	3/3	(100%)
	熟練	8/9	(89%)
簡単などころから始めよう	若手	2/3	(67%)
	中堅	3/3	(100%)
	熟練	7/9	(78%)
この考え方ではだめだから、違う考え方をしてみよう	若手	3/3	(100%)
	中堅	3/3	(100%)
	熟練	9/9	(100%)

きが67%であるのに対して、中堅教師、熟練教師は100%であった。さらに、若手教師が「簡単などころから始めよう」といった計画を立てることが67%であるのに対して、中堅教師は100%、熟練教師が78%であった。

このことから、経験年数による授業中の意識の違いが明らかになった。教師は授業中に教えながらも指導している自分をモニターしている。「何となく分かっている(いない)」といった感覚は、経験年数で大きな違いはない。しかし、「この問題なら簡単に解けそうだ」という認知についての予想は、若手教師は十分ではないことがわかった。また、「ここが理解できていない」といった気づきも中堅教師や熟練教師に比べて、やや十分でないことがわかった。さらに、モニターしたことをコントロールして、「この考え方ではだめだから、違う考え方をしてみよう」という修正は、経験年数によって大きな違いはない。しかし、「簡単などころから始めよう」といった計画はやや十分でないことがわかった。

### 3.1.4 自由記述の結果

授業改善の取組についての自由記述を表したのが、表6(下線部は筆者)である。若手教師に比べて、中堅教師や熟練教師は「授業後に振り返りを行う」「補足説明を加える流れをつくる」など授業改善の方法が具体的であった。

また、授業改善で困難なことについての自由記述を表したのが、表7(下線部は筆者)である。若手教師が「知的におもしろい授業の方法がわからない」など、3.1.2の「若手教師は改善方法がわからないで困っている」という結果を裏付ける記述が見られた。また、「助言をもらえる機会がほとんどなく、自分で解決している」「みんな忙しそうなので聞きづらい」など、「中堅教師は協力者に困っていない」という結果ではあるものの遠慮している面も明らかになった。さらに、「日々、授業以外に様々なことにかかる時間が多く、じっくりと授業改善に取り組めない」など、「熟練教師は中断することで困っている」という結果を裏付ける記述が見られた。

さらに、授業中の意識についての自由記述を表したのが、表8(下線部は筆者)である。「全員を意欲的に授業に参加させるためにはどうしたらよいか」という若手教師の記述は、3.1.3の「若手教師は認

知についての予想が十分でない」という結果を裏付けるものであった。これに対して、中堅教師は「子どもたちの興味・関心を引き出したり、分かる→できる（活用）に導いたりするには」、熟練教師は「どんな発問、指示をすると、更に児童の反応がよくなるか」など具体的に予想していた。

4. まとめ

本研究の目的は、質問紙調査結果を基に、小学校教育現場の通常の授業改善方法とその課題を明らかにすることであった。

調査の結果、小学校教育現場では同僚への相談や実践本を読むなどしてほとんどの教師が通常の授業改善に取り組んでいるが、課題として次の3点が明らかになった。

第1に、若手教師が研修を授業改善方法ととらえていないという課題がある。中堅教師や熟練教師のほとんどが研修会への参加を改善方法に挙げている

のに対して、若手教師全員が研究授業は引き受けるが研修会への参加を改善方法に挙げていなかった。若手教師が自由記述で「日々の仕事に追われてしまっている」と記述していることから、研修が授業改善と結び付いていない実態が明らかになった。これまで教員の力を育ててきた学校の機能が、教員の大量退職や学校の小規模化、学校現場の多忙化などにより弱まってきているという指摘がある（文部科学省2012）。学び続ける教員を支援する仕組みとして、多忙な中でも手軽にできる研修の在り方を検討する必要があると考える。

第2に、授業改善の時間調整が課題である。若手教師は①時間②方法③協力者の3点で、中堅教師や熟練教師は①時間②中断で困っていた。若手教師に改善方法を支援したくても、中堅教師や熟練教師は多くの時間を割くことができないことから、短時間で支援する仕組みが必要であると考えられる。

第3に、経験年数の違う教師との討議が課題である。若手教師は授業をしながらの「気づき」や「予

表6 授業改善への取組についての自由記述

記述A：授業改善に取り組むことで留意していること	
若手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前日に授業の準備をできるかぎりする。</li> <li>・教育書を読む。</li> <li>・研究授業をできるだけ引き受ける。</li> <li>・他の先生の授業を見て、教材研究に取り組む。</li> <li>・参考資料を見て取り組む。</li> </ul>
中堅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に改善に取り組みたい教科（単元）には、情報収集を行い、授業後に自己で振り返りを行う。</li> <li>・教材研究をじっくりやる。</li> <li>・児童の振り返りカードや学習成果の分かる資料を丁寧に読む。</li> <li>・先輩に教え方を聞く。</li> <li>・インターネットや本を使い、情報を集める。</li> </ul>
熟練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究をし直す。</li> <li>・同僚と相談する。</li> <li>・書物で研究する。</li> <li>・先輩の経験談を聞いたり、同僚に授業を見せてもらったりする。</li> <li>・日々のノートやミニテストなどから理解できていないところを見つけ、振り返りや補足説明を加える流れを作って実践する。</li> <li>・文献を参照したり、同僚に相談したり、授業参観したりする。</li> <li>・ICTにチャレンジする。</li> </ul>

表7 授業改善が困難なことについての自由記述

記述B：授業改善が困難だと感じること	
若手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を研究する時間がない。</li> <li>・<u>知的におもしろい授業の方法が分からない。</u></li> <li>・研究授業をできるだけ引き受ける。</li> <li>・<u>日々の仕事に追われてしまっている（自分でいかに時間を作るかが大切だと思ってが・）。</u></li> <li>・ICT機器が使いこなせない。研修し、実践することを繰り返さないと身につかない。とても苦手。</li> </ul>
中堅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修する時間が全く足りない（平日も土日もほとんどの時間を費やしている。（経験が浅いためというもある）。</li> <li>・<u>助言をもらえる機会がほとんどなく、自分で解決している。</u></li> <li>・教材研究をじっくりやりたいが、時間が足りない。</li> <li>・みんな忙しそうなので聞きづらい。</li> </ul>
熟練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な時間がない。</li> <li>・勤務時間ではやる時間がなく、いつも家庭でやっている。</li> <li>・<u>日々、授業以外に様々なことにかかる時間が多く、じっくりと授業改善に取り組めない。</u></li> <li>・教材研究にじっくり取り組む時間が足りない。</li> <li>・使いたい教具がない。製作時間の確保。</li> </ul>

想」が十分でないため、「計画を立てて進めること」が難しいという実態が調査から明らかになった。自分の授業の振り返りを効果的に行う方法として、授業リフレクションが注目されている。澤本ら（2005）はベテラン教師が身につけている自己モニタリング能力を討議や対話を通して、授業リフレクションで高めることを提案している。中堅教師が自由記述で「特に改善に取り組みたい教科（単元）には、情報収集を行い、授業後に自己で振り返りを行う」と述べているが、若手教師は自分で振り返りができるようになるまで、経験年数の違う教師と討議や対話をする必要があると考える。

急増している若手教師が、自主的に学び続ける力をもつよう支援する仕組みの構築が求められている。

表 8 授業中の意識についての自由記述

記述C：授業をしていてよく考えること	
若手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>全員を意欲的に授業に参加させるためにはどうしたらよいか</u></li> <li>・本時で最終的におさえるべきところはどこか（何か）</li> <li>・クラスの全児童がどの程度理解しているか</li> <li>・指導課程はこれでよかったか</li> <li>・考えさせるものであったか</li> </ul>
中堅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを達成するために、クラスの一人一人にちょうどよい課題をどのタイミングでどのように出していくか</li> <li>・もう少しICTを活用できたらなあ</li> <li>・子どもたちの興味・関心を引き出したり、<u>分かる→できる（活用）</u>に導いたりするには</li> <li>・子どもたちにどのぐらい理解や習熟がされているか</li> </ul>
熟練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>どんな発問、指示をすると、更に児童の反応が良くなるか</u></li> <li>・思考力・判断力・表現力を向上させるための手立て。</li> <li>・下位群の指導方法。</li> <li>・適切な発問、本時のねらいに迫るための児童の活動。児童の思考に沿った授業の組み立て方。</li> <li>・児童の表情や取り組みの様子を見て、理解度や投げかけ方の良し悪しを判断し、次の取組を変えようとか常に考えている。また、ここでこういう教具（ICT含む）を準備しておけばよかったなど。</li> </ul>

今後は、調査結果から得られた教育現場特有の課題を軽減する戦略を検討し、若手教師の授業改善を支援していきたい。

### 参考文献

- ベネッセ教育研究開発センター（2010）第5回学習指導基本調査（小学校・中学校版）
- 岩手県立総合教育センター（2006）授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関する研究  
－「校内授業研究の進め方ガイドブック」の作成と活用をとおして－
- 神奈川県総合教育センター（2008）「神奈川県 高等学校版 授業改善のための授業分析ガイドブック」
- 日本教育工学会（2000）教育工学事典，廣済堂，pp482-483
- 水越敏行，永岡順（1995）新学校教育全集28 学校の教育研究，ぎょうせい，pp94-97
- 文部科学省（2006）初等中等教育分科会（第55回）・教育課程部会（第66回）合同会議配付資料 資料 5-2 教職員をめぐる状況  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/s07102505.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/s07102505.htm) (accessed 2008.01.02)
- 文部科学省（2007）大学設置基準等の一部を改正する省令等の施行について（通知）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusyo/nc/07091103.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusyo/nc/07091103.htm) (accessed 2008.01.02)
- 文部科学省（2012）教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm) (accessed 2012.12.01)
- 澤本和子，宗我部義則（2005）夢中・熱中・・・そして感動 柏市立中原小学校の挑戦！授業リフレクションで校内授業を変える，東洋館，pp125-132

## **A survey of elementary school teachers' methods and issues on teaching improvement**

**Tomoko SUGAWARA\*· \*\*\*, Kazumi MIURA\*\*, Taira NAKAJIMA\*\*\*\***

\* Takamori Higashi elementary School

\*\* Faculty of Child and Family Studies, Tohoku University

\*\*\* Graduate School of Educational Informatics / Education Division, Tohoku University

\*\*\*\* Graduate School of Educational Informatics / Research Division, Tohoku University

### **ABSTRACT**

Though school teachers are required to learn through their careers, it is difficult for them to practice teaching improvement daily because they are so busy. There are some surveys and researches about teaching improvements performed in elementary schools. However, their purposes are for organizational development, and the authors could not find a viewpoint of individual teachers' teaching improvement. In this research, we conducted a questionnaire survey for elementary school teachers. We asked individual teachers to tell their specific effort and difficulties for teaching improvement. Then we asked them about their cognitions in their teachings at classrooms. Through the survey, we clarified how elementary teachers individually improve their teaching and what are obstacles of their teaching improvement activities.

**Key words:** Teachers Keep learning, Education, Lesson improvement, Class reflection, Self-monitoring capacity